

成人期の注意欠如・多動症の時間処理障害に対する 集団認知行動療法プログラムの開発に関する研究

中島, 美鈴

<https://hdl.handle.net/2324/4059963>

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (心理学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

氏名	中島 美鈴			
論文名	成人期の注意欠如・多動症の時間処理障害に対する 集団認知行動療法プログラムの開発に関する研究			
論文調査委員	主査	九州大学大学院人間環境学研究院	教授	黒木俊秀
	副査	九州大学大学院人間環境学研究院	教授	田中真理
	副査	九州大学大学院人間環境学研究院	准教授	小澤永治
	副査	九州大学大学院人間環境学研究院	教授	大場信恵

論文審査の結果の要旨

本論文の研究は、成人期の注意欠如・多動症患者に対する集団認知行動療法の効果を最大化するために、時間管理プログラムを作成しその効果を実証したものである。また、その効果に影響する要因について検討し、治療者に求められる臨床スキル、プログラムの適用範囲、他の治療法との併用について検討を行った。

第1章では、成人期の注意欠如・多動症の心理的支援の概要と課題について文献的検討を行った。成人期の注意欠如・多動症に対する集団認知行動療法の効果の最大化を図るための諸要因を検討した結果、本研究では、時間処理障害に焦点づけた成人期用のプログラムを作成することとした。第2章では、集団認知行動療法治療者評価尺度を開発し、高い信頼性と、治療者の臨床技術を弁別する可能性を示した。第3章では、成人期の患者の時間処理障害に焦点を当てた集団形式の介入プログラムの効果を通常治療群を対照群とした無作為化比較試験にて検討した結果、患者本人だけでなく、同居の家族、臨床家評価によっても注意欠如・多動症の不注意や記憶の問題に関する症状が改善され、機能障害も改善したことを見出した。第4章では、参加者要因およびその他の治療要因に関して、他の要因と合わせて効果への影響を検討した。さらに第5章では、グループ参加者の事例において、さまざまな変化過程の様相を明らかにし、個別実施の事例も提示して、集団形式で行う意味について考察した。最後に第6章では、以上の知見を、時間処理障害に焦点づける視点から総合的に考察した。時間処理障害に焦点づけた介入は、小児期のみならず、成人期の患者に対しても有効であり、時間処理障害という単一の側面に焦点づけた介入によっても、従来の集団認知行動療法プログラムと同等の効果が得られる可能性を示唆した。また、時間処理障害に焦点づけた治療における変化過程も明らかにした。以上のように、本論文の研究は、時間処理障害に焦点づけるという新しい視点から成人期の注意欠如・多動症患者に対する介入プログラムを開発したのみならず、その効果を多面的に実証した。

本研究は、成人期の注意欠如・多動症患者に対する時間処理障害に焦点づけた集団認知行動療法プログラムの有効性を示唆したパイロット研究であり、その研究デザインにはなお限界を認め、今後、追試のうえ、検証することが求められる。しかしながら、成人期の注意欠如・多動症に対する新しい心理的支援方法の開発研究として、臨床心理学的意義は大きい。

よって、本論文は博士（心理学）の学位に値するものと認める。